

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立丹原高等学校

学校番号 (13)

評 価 実 施 日		令和8年2月25日(水)	
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	玉井 治樹	学校評議員、元県立学校長	
	山内 政志	学校評議員、PENTA FARM代表取締役 はつきり農園代表	
	渡部 泰成	学校評議員、西条市役所(経営戦略部長)	
	鎌田 竹広	学校評議員、鎌田農園代表	
	野島 貴子	学校評議員、愛媛県移住相談員	
	畑中 祐介	保護者代表、PTA会長	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (1) 教科指導について ・蒔いた種が育ち、生徒たちが成長している。自主的な活動ができる生徒に育っている。教科のねらいが成果として出ており、改めて素晴らしい。 ・これまで取り組んできた探究学習の精神が子どもたちに伝わっている。自主的に考え、行動に移すという、大学で学ぶようなことを高校で行っており、素晴らしい成果を収めている。新校にも引き継いでほしい。 ・主権者教育が熱心になされていて素晴らしい。 (2) 進路指導 ・個別指導の充実と進路実現では評価が高い。進路決定率は99.2%である。国立大学進学者数にも大きな成果が出ている。教員の負担が懸念される。 ・支援や合理的配慮が必要とされる生徒に対しても、手厚い指導、支援が確実に行われている。	・総合的な探究の時間(t-time)、生徒会主体の学校行事運営、ルールメイキングプロジェクトなどの様々な教育活動で探究型学習を取り入れ、人前で発表する機会が増えることで、自己探究力や問題解決能力を備えた生徒の育成につながっている。もっとこうしたいという思いを出して、更に自走できるように支援していく。 ・新校へつなげていくためにも、本校の活動をモデルとして示し続けていく。 ・授業等、学校生活の様子について、生徒から保護者に伝えられるように、生徒と保護者が対話する機会を増やす工夫をする。 ・A I 技術の活用を推進し、指導の効率化を図りたい。 ・今後も引き続き、就労支援コーディネーターと連携を図っていく。

(3) 生徒指導 ・ 経済的に厳しく、貧困が原因で退学をする生徒がいるならば、サポート可能な機関があるので情報提供をしていく。 ・ 転、退学生徒の増加が気になるが、他校でも同じような傾向が見られるということもあり、これからの課題である。 ・ 皆勤率が低いと感じる。 ・ 4月からの自転車の交通違反に対して「青切符」制度が導入されるが、交通違反の確率が上がらないように、高齢者にも十分に気を付け、安全に運転をしてほしい。ルールメイキングで、このテーマについて取り上げた取組がなされるとよい。 (4) 特別活動 ・ 地域と連携した行事やボランティア活動に生徒が主体的に参加している。地域の行事では、丹高生が参加してくれないとできなくなる行事があり、地域活性化に貢献している。 ・ 部活動等で成果が上がっている。 (5) 相談・人権 ・ 生徒の問題の早期発見、対応ができています。教職員間で情報共有をし、学校全体での指導が大切である。	・ 生徒の状況を十分に把握し、対応をしていく。また、外部機関との連携が深められるように、情報収集を行う。 ・ 「支援」をキーワードに、今後も支援を必要とする生徒の指導を手厚く行っていく。 ・ 中学校時に欠席が多い生徒も入学してきており、障がい生徒対応の教育業務支援員を配置していただいていることで、生徒の支援が充実している。 ・ 中学校時からの不登校生徒、保護者の意識の変化などに伴い、皆勤を重視することが難しい状況において、皆勤率の数値目標の見直しを行う必要がある。 ・ ルールメイキングの活動の一環として、交通ルール・マナーについて生徒間で話し合いを実施する。 ・ 今後とも探究型学習に取り組み、地域行事への積極的な参加により地域活性化への貢献を推進する。さらに、地域に根差した学校作りにつなげる。 ・ 生徒会やルールメイカーを中心とした生徒の主体性を生かした学校行事を企画・運営する。 ・ 県総体や高文祭への出場者数は目標値を超えている。来年度からは新入生が少ないことから生徒数が減少し、合同チームで活動する部活動も出てくるが、活躍が見られるよう活性化を図る。 ・ 面接週間、アンケートなど生徒の問題や状況を把握するため、今後とも定期的実施する。また、教職員間で情報共有ができる組織と環境作りをし、更に連携を深める。 ・ 保護者への啓発をし、生徒、保護者に寄り添った指導と連携を深める。
---	---

(6) 学校安全 ・防災教育が充実している。今後も地域と連携をして実施してほしい。 (7) 農業教育 ・現在の素晴らしい取組が、新校に引き継がれ、更に地域活性化につなげてほしい。 (8) 業務改善等 ・働き方改革について、様々な取組がなされており、努力が伝わってくる。 ・PTA理事会の持ち方など、保護者にも協力をしていただいている。今後もPTAからもしっかりと協力できるよう、引継ぎをしていきたい。 2 学校運営への提言 ・来年度は1学年減ることで、教員数も減少する。今までやってきたことができなくなる可能性もある。魅力あるものをどのようにしていくのか、中身を工夫したり、精選したりする必要がある。地域に更にアピールをしていく必要がある。	・継続してモデル地域内の学校、地域、自治体、関連機関と連携をし、情報共有と実践的な防災教育を推進する。 ・「丹高防災DAY」を継続し、体験的な取組を通して防災意識の向上につなげる。 ・学校安全計画、危機管理マニュアルは毎年見直し、実効性の高い内容に更新する。また、生徒や教職員に周知し、いざというときに行動ができるよう実効性を高める。 ・今後とも地域と連携した農業教育を推進し、更に普通科と協働をすることで学校の魅力ある活動や活性化につなげる。 ・働き方改革について、今年度は様々な取組を行ってきたことが、成果として現われている。継続していくことと、更に教職員から改善策を募り取り組んでいく。 ・最後まで輝き続けるために、今後も地域に発信をしていく。また、新校においても「やってみたい」を取り入れて広げていく。
--	--